実践報告

コロナ禍における初年度学修支援センターの取り組みと次年度に向けた課題

奥田　のり美*・林　里沙子*・岡本　杏華*・田口　豊恵*

Ⅰ．はじめに

学修支援センターは、学生一人ひとりの学修ニーズに対応し、大学での学びを有意義なものにするために2020年４月に設置された。学修支援センターのねらいは、①大学生活において学修に関わる悩みや不安に寄り添い、日々の学修活動がスムーズに進むよう支援する。②学修に対する自己の課題に気づき、行動変容できる、自律した看護職になるための学修を支援する。③看護師国家試験対策として、１～４回生までの到達目標を学生が理解し、その目標に到達できるよう系統的なプログラムを計画・実施するという３点である。

本報では、コロナ禍における①４回生の国家試験対策、②学習相談会の企画と学修支援についての工夫について述べ、次年度に向けての課題を明確にする。

Ⅱ．４回生の看護師国家試験対策

看護学教育の集大成の１つとなる看護師国家試験の受験は、2021年２月14日に４年目を迎えている。新年度に入った学修支援センターの会議では、学修計画を早期に立案しなければとやや焦る気持ちで医学書院の分厚い国家試験問題集の購入を検討していたことが昨日のことのようである。

今年度の４回生に向けての看護師国家試験対策は、４月の緊急事態宣言発出直後から始まった。過去の問題を中心にBook Looperを利用した自宅での問題解答、それに対応した特別講義（以下、特講）を組み合わせながら、リモートでの講義を余儀なくされた。全国模擬試験は７月から翌年１月まで計11回実施し、その後に問題の解説を実施した。また、得点率を分析し、得点の低い領域の担当教員に特講を依頼した。特に成績低迷者には、全体の特講とは別スケジュールを組み、少人数制で対応した。

９月定期試験終了後に全国模擬試験の結果、全国平均点または平均点以下の領域、状況設定問題、計算問題の特講を各領域の教員の協力を得て行った。また、９月からは、本学の「新型コロナウィルス感染拡大に伴う活動制限ガイドライン」に則って申請により登校が可能となったが、課題探求Ⅱと国家試験対策との同時進行が厳しい学生もみられ、学修計画を修正しつつ進めた。冬季休暇中の対応としては、年明けに実施する全国模擬試験にむけての課題を具体的に提示した。また、ゼミの教員からの支援としては、学修状況や体調の確認をお願いした。また、気がかりな学生への面談を企画し、学修成果の向上およびメンタルケアを担任団と進めてきた。

例年の国家試験対策では、マークシート記入の練習や、全体および個人の傾向、各問題の得点率把握などの目的で、学内で模擬試験を行う際にはマークシートへの記載および分析を行っ

*京都看護大学

てきた。しかし今年度は登校できないことも多く、自宅受験を余儀なくされた。業者模擬試験終了後の解説に関して、例年は試験終了後、直ちに分析し正答率の低い問題を中心に解説を行っていた。しかし、本年度はタイムリーに解説ができない状況にあった。受験後速やかに必修問題のみ全て解説を行い、その他の問題は例年同様に解説を行った。前年度と比較すると、全国模擬試験は1回多く、学生全員を対象とした練習問題および特講は前年度と比較し約3割多く実施した。また、成績低迷者への練習問題および特講の実施も前年度と比べ約3割回数を増やして対応した。

また、リモート講義では、チャット機能で講義中いつでも質問ができるようにし、個々の学生が学習に困らないよう支援につなげた。集団を対象とした授業に追いつくことが難しい成績低迷者に対しては、学内規程に則り「特別警戒時における対面授業申請」を行い、コロナ感染対策を徹底した上で、少人数を対象とした特講を行った。

九州大学（2020）の調査によると、コロナ禍において、「孤独感や孤立感を感じる」と答えた学生は約40％に上っている。そのため、成績低迷者以外の学生に対しても、質問等に関してメールを活用、そして、学生の希望に応じて、グループ別でのリモート講義を行った。加えて、学修委員から学生全員に対する連絡を徹底すること、Webポータルでの掲示板・アンケート機能を活用することで、学生同士の連帯感が感じられるように配慮した。

Ⅲ．遠隔講義による学修会の実施

1回生に対しては、前期定期試験前に解剖生理学の補講を希望者に実施した。後期定期試験前に看護学を学ぶ上で基本となる疾病の理解についての補講を実施した。前期定期試験前の参加者は95名（77%）と多く、入学後、初めての試験に対する緊張感や高校とは異なり広範囲の試験範囲への対応に苦慮していた学生が多かったようだ。後期定期試験前の学習会には104名（85%）が参加し、意欲的に学修に取り組む様子が見られた。定期試験に向けた学習方法やポイントを確認し、疾病に関連した解剖生理学や看護の知識を確認する方法として医学書院看護師国家試験問題WEBの活用方法について説明を行った。学修会後のアンケートでは、「範囲が広くどのように勉強してよいか悩んでいたが、重要なポイントを聞けて役に立った」、「ポイントがわかってよかった」、「国家試験問題WEBは使ったことがなかったので、使い方がわかって良かった」、「テストへのやる気が出た」、「テスト前に限らず定期的に開催して欲しい」など学修意欲の向上や、具体的な学修方法の習得につながったと考えられる回答が多く見られた。一方で、「もう少し早い時期に開催して欲しい」などの意見も見られたため、今後の学修会の時期や内容の検討につなげていきたい。

2回生に対しては、6月に解剖生理学の特講後、解剖生理学・疾病の業者模擬試験を行なった。3月にも実施予定であり、実施後は成績低迷者に対して解説を行う予定である。

3回生に対しては、臨地実習のインターバル期間にグループ毎にリモートで強化学修を行った。実施日は月曜日から金曜日の10時から15時とした。内容は3事例、それぞれの解剖生理学、疾病、検査、治療、そして看護を自主的に学修できるように事前学習、自己学習を組み入れた。そして、講義につなげた。学修成果を確認する為に、ノート作成を必ずするように伝え、強化学修終了後に提出させ、内容を確認した。多くの学生の作成したノートは次年度の国家試験対策に活用できる内容である。

Ⅳ．次年度への展望

本年度は今までにない方法で国家試験対策を行った。例年は学生の反応を肌で感じながら特講をしてきた。しかし、本年度は学生の反応をリモート講義でどのように感じとったらいいのか、自問自答をしながらであった。講義は、授業者と学習者とのかかわりによって絶えず複雑に変化する「相互性」の場であり、相互性が生まれることで学びへとつながっていく（目黒, 2010）。相互性を築くためには、相手の表情や反応を肌で感じ受け止めていくことが重要であるが、対面での講義とは異なり、リモート講義では学生の反応をとらえていくことに限界があり、これまで以上の工夫が求められる。理解できているのかどうかを確認するために、Web ポータルの活用、一方的な講義にならないために、質問を多くし、重要な項目は 2 回以上説明する、できるだけ学生の表情を観るため学生のビデオカメラをオンにする等、多くの学生の反応を肌で感じることができたのではないかと考える。特に、成績低迷者は、講義前、後に個別に話ができる時間も設けた。村上ら（2016）は、「指導を行う教員と学生との関係性も学習に影響を及ぼすと考えられる。学生が信頼を置く教員から称賛を得られることで、自己効力感が高まり、学習意欲へとつながる可能性が高くなる。」と述べている。個別に設けた時間の中で、世間話に始まり、今の学生の気持ち、学修状況の把握と肯定的なフィードバックを行ったことは学生のモチベーションの維持につながったと考える。

次年度に向けては、リモート講義・面談のメリット、デメリットを理解した上で、画面の向こう側にいる学生の状況や気持ちに配慮し、何を伝え、対話を試みるのかがさらに重要となる。そのためには、我々のチーム力と教材分析力を高められるよう研鑽していきたい。

文献

新井英靖 .（2017）. アクティブ・ラーニング時代の看護教育 - 積極性と主体性を育てる授業づくり -. 京都 : 京都ミネルヴァ書房 .

九州大学 .（2020）. 九州大学の学生生活に関する学生アンケート（春学期）結果について . https://www.kyushu-u.ac.jp/f/40310/ 20_08_11_02.pdf.（閲覧日：2021 年 2 月 16 日）

目黒悟 .（2010）. 看護教育を拓く授業リフレクション教える人の学びと成長 . 東京 : メジカルフレンド社 .

村上大介 , 新井志穂 , 木村涼子 .（2016）. 看護学科における国家試験対策指導の実績と課題 . 東北文化学園大学看護学科紀要 , 5（1）, 27-35.

佐藤みつ子 , 宇佐美千恵子 , 青木康子 .（2009）. 看護教育における授業設計第 4 版 . 東京 : 医学書院 .